

令和5年度 第3回伊万里市民と考える地域交通会議
会議録

日 時：令和5年11月9日(木) 14:00～15:00

場 所：伊万里市役所4階大会議室

<配布資料>

0. 次第、委員名簿、座席
1. 伊万里市民アンケート調査実施報告書
2. 伊万里市通学に関する高校生アンケート調査 集計結果
3. 交通事業者ヒアリング結果概要
4. 伊万里市の地域公共交通計画の骨子案について
5. 伊万里市地域公共交通計画【現況整理】(案)

◆意見要旨

1. 第3回伊万里市民と考える地域交通会議

<協議事項>

【1】 調査結果報告について

*資料1、2、3を基に、KCSが説明。

桑本会長 : KCSからの説明について、ご質問等はないか。

前田委員 : バス、タクシーのドライバー不足があるが、伊万里市としてコミュニティバス以外に運転手の募集は行っているのか。他自治体では温泉施設で従業員の獲得に向けて、従業員に家賃の補助等バックアップを行い、移住者を増やす取り組みを行っているが、伊万里市ではそのような人を増やすための取り組みは行っているのか。

事務局 : 他市町でそのような取り組みを行っていることは知っているが、伊万里市で運転手に限ってそのような施策は今のところ行っていない。

野原委員 : 平戸市の交通会議の中で(西肥バス子会社のシルバータクシー撤退による)タクシー不足が問題となっており、その対策として二種免許を取る人、平戸市に通勤する人に対して市として補助を出す、バスに対しても検討していきたいという話があった。

庄司委員 : あいのり活性化委員会でそのような話があった。補足として、あくまでも事業者に対してではあるが、補助が今年度の予算修正の中で検討されている。今年度はタクシーのみであるが、次年度はバスも検討していただきたいと要望した。

- 事務局 : 周辺の状況、事業者様からご意見を伺いながら、伊万里市としても実施可能か検討していきたい。
- 早田委員 : 19ページの店舗名がおかしいので、この資料がきちんと残るようなら店舗名を整理した方が良い。
- 事務局 : 今後精査する。
- 大野委員 : 筑肥線の時刻表について、高校生の部活終わりの時間帯である19時の便がなく、保護者が迎えに来ている状況。便数を増やすのが難しければ、昼の利用者の少ない時間帯の便を減らして19時台に持ってくるなどできないだろうか。保護者からも意見が上がっているが、なかなかこの要望の声が届かないので、市からもお願いしてほしい。
- 事務局 : JRの運行状況もあるので、事業者につなげて要望として、お願いしていきたい。
- 野田委員 : 今のご意見やこのアンケート結果を踏まえて検討していきたい。
- 桑本会長 : 【1】の調査結果報告について、承認いただける方は挙手をお願いしたい。挙手多数ということで、承認いただいたということで進めたいと思う。

【2】 地域公共交通の課題について

*資料4、参考資料を基に、KCSが説明。

- 桑本会長 : KCSからの説明について、ご質問等はないか。
- 坂井委員 : 伊万里市都市形成戦略の中に出てくる「小さな拠点」や「交通空白地域」とは具体的にどの辺のことか。
- 事務局 : 「交通空白地域」についてはバス停から300m以上、かつ駅から500m以上離れている所と定義しており、東山代町の下分、日南郷、南波多町原屋敷が残っている。
- KCS西本 : 都市形成戦略の小さな拠点とは、具体的には各地域（波多津、黒川、大川などコミュニティバスが走っている地域）のことで、ひとつひとつの拠点となる所と市の中心部との連携が行われていない。ここでの「小さな拠点」は波多津、黒川、大川といったひとつひとつの町を想定している。
- 庄司委員 : 想像以上に公共交通の利用者が少ない。当社でも伊万里市だけではなく佐世保市でもコロナ前から20%程減少しており、学生も親の送迎に移行して戻って

こない。現在は市の補助金で運行を維持しているが、ドライバー不足も課題。人数は30人近くいるが平均年齢が50代後半と高齢化しており、この状況が続くと、市に財政を負担してもらってもドライバーがいなくなって維持していけない。今後は路線のコンパクト化、再編が必要になる。現状を踏まえても、ドライバー不足解消策を市にもご検討いただきたい。

事務局 : 計画作成にあたっては、今回の意見を踏まえて、どういったところで入れられるかは検討が必要だが、どういう形で書き込めるか考えていきたい。

前田委員 : 各町（黒川、波多津、山代など）の中では動いているがその地区から市中心部へ行くための路線バスとの乗り継ぎはどうなっているのか。

事務局 : バス停まで行ってコミュニティバスに乗ってもらってそこから西肥バスに乗って伊万里市中心部に移動してもらおう。路線バスが走っているところをコミュニティバスが走ることは出来ないのだから乗り入れは出来ない。

前田委員 : コミュニティバスと路線バスの乗り継ぎが上手くいかず、黒川等の町にとどまって市の中心部まで行けないということであれば乗継時間の調整が出来ないか。

事務局 : コミュニティバスを運行しているのは各町の運営で、町の希望で時間を決めている。市の中心部に向かう、帰ってくるバスと接続をしているという前提である。不都合があるようなら路線バスよりコミュニティバスの時間を変更する方が手順は少ない。上手く町と連携しながら進めていきたい。

桑本会長 : 【2】の地域公共交通の課題について、承認いただける方は挙手をお願いしたい。

挙手多数とのことで、承認いただいたということで進めたいと思う。

【3】 地域公共交通計画（骨子案）について

*資料4、参考資料を基に、事務局が説明。

桑本会長 : 事務局からの説明について、ご質問等はないか。

各委員 : 特になし

桑本会長 : 【3】の地域公共交通計画（骨子案）についてご承認いただける方は挙手をお願いしたい。

挙手多数ということで、承認いただいたものとする。

ほかにご意見ご質問等あればお願いしたい。

坂井委員 : 基本目標で「乗って守る意識を育み自家用車依存からの脱却」と掲げているが、まちづくり課の方で高齢者へ説明をしてまわって、1月に行う県のバス無料デーをきっかけにPRしていただいております、試乗会、乗車体験会も考えられているので、広域バス、幹線バスを乗って支えていただくとありがたい。

桑本会長 : 令和7年度から団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になり、今後5年間、免許返納等で交通弱者が増えていくと問題視されている。市町村としてもこの状況を市民の方々に公共交通の意義を十分にご理解いただくよう説明していきたい。他になればこれで会議を終了とさせていただきます。